NIPLO

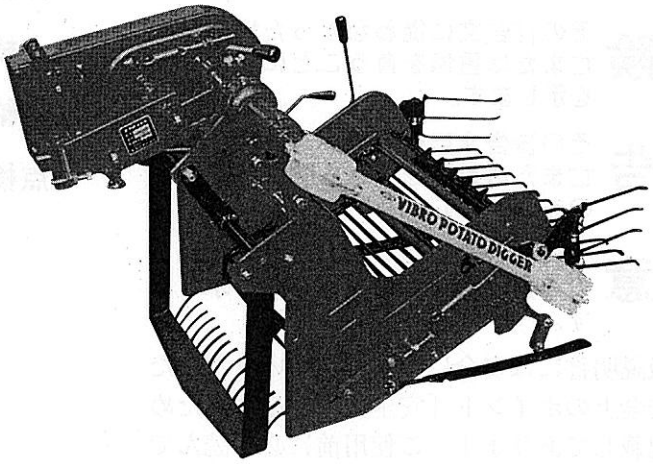
ニプロ掘取機

P. VP. K series

取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。

この製品を安全に、また正しくお使いいただくために、
必ずこの**取扱説明書**をお読みください。
●間違えた使い方をすると事故をおこすおそれがあります。
●お読みになった後は、必ず製品の近くに保管してください。



松山株式会社

ニプロ製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

はじめに

●この取扱説明書は、**掘取機**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書をよく読み十分理解されてから、正しくお取扱いいただき、最良の状態でご使用してください。

●お読みになった後は、必ず製品の近くに保管し、常に読めるようにしてください。

●製品を他人に貸したり、譲り渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失、または損傷した場合は、すみやかに弊社またはお買い上げいただきました販売店・農協へご注文してください。

●品質、性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。そのような場合には、本書の内容、および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただきました販売店・農協へご相談ください。

●⚠印付きの下記マークは、安全上、特に重要な事項です。必ず守って作業をしてください。

⚠ **危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

●この取扱説明書には安全に作業をしていただくために、安全上のポイント「安全に作業をするために」を記載してあります。ご使用前に必ず読んでください。

もくじ

安全に作業をするために ……1
警告ラベルの種類と位置 ……5
本製品の使用目的 ……6
保証書について ……6
アフターサービスについて ……6
補修部品と供給年限について ……6
主要諸元 ……7
各部のなまえと組立 ……8
トラクタの準備 ……10
トラクタへの装置 ……10
トラクタとの調整 ……12
ほ場への出入り ……13
作業時の注意 ……13
作業の方法 ……14
点検整備・保守管理 ……16
格納 ……16
点検整備チェックリスト ……16

●この取扱説明書の文章中で記述している「トラクタ」は、ハンドトラクタ、耕うん機、ティラーを示しています。

安全に作業をするために

ここに記載している注意事項を守らないと、死亡・傷害事故や、機械の破損の原因になります。
よく読んで安全作業をしてください。

一般的な注意事項

⚠警告　こんなときは運転しない

●過労・病気・薬物の影響・その他の理由により作業に集中できないとき
●酒を飲んだとき
●妊娠しているとき
●18歳未満の人

⚠警告　作業に適した服装をする

はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。
ヘルメット・すべり止めのついた靴を着用し、だぶつきのない服装をしてください。
【守らないと】機械に巻き込まれたり、すべって転倒するおそれがあります。

⚠警告　機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故、機械の破損をまねくおそれがあります。

⚠警告　機械を他人に譲り渡すときは取扱説明書を付ける

機械と一緒に「取扱説明書」を渡し、必ず読むように指導してください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故、機械の破損をまねくおそれがあります。

⚠警告　トラクタに作業機を装着するときは、必ずトラクタの取扱説明書を読む

トラクタに作業機を装着する前に、必ずトラクタの取扱説明書を読みよく理解してから作業機の装着をしてください。
【守らないと】傷害事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

⚠警告　重量バランスの調整をする

トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、トラクタメーカ純正のバランスウェイトを付け、バランス調整をしてください。

【守らないと】傷害事故や機械の破損をまねくおそれがあります。

⚠注意　公道の走行は作業機装着禁止

トラクタに作業機を装着して公道を走行しないでください。
必ず、作業機を取り外して走行してください。

【守らないと】道路運送車両法違反です。
事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意　機械の改造禁止

改造をしないでください。保証の対象にはなりません。
純正部品や指定以外の部品を取り付けないでください。

【守らないと】事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

点検・整備の注意事項

⚠注意　点検・整備をする

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。

【守らないと】事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

⚠注意　点検整備中はエンジンを停止する

点検・整備・修理、または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

⚠警告　点検整備は平らで安定した場所でおこなう

交通の邪魔にならず安全で、機械が倒れたり、動いたりしない平らで安定した場所で、点検整備をしてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意　カバー類は必ず取付ける

装着のときや、点検・整備で取外したカバー類は、必ず取付けてください。
【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意　目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。
【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。

作業時の注意事項

⚠警告　作業機の着脱は平らな場所でおこなう

作業機の着脱は、平らで固い場所でおこなってください。
【守らないと】下敷きになったり、ケガをしたりします。

⚠警告　トラクタと作業機のまわりに人を近づけない

トラクタのまわりや作業機との間に人を入れないでください。
【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告　作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を入れないでください。
【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。

⚠警告　機械に巻き付いた草やワラを取るときはエンジンを停止する

回転部分に草やワラが巻き付いたときは、必ずエンジンを停止させ、巻き付きを外してください。
【守らないと】機械に巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。

⚠注意　作業機の調整はエンジンを停止しておこなう

作業機の調整をするときは、作業機を下げ、PTO変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してからおこなってください。

【守らないと】傷害事故や機械の損傷をまねくおそれがあります。

⚠警告　傾斜地では、ゆっくり大きくまわる

傾斜地での高速・急旋回は、転倒のおそれがあり大変危険です。
トラクタ速度を落とし、大きく回ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故を負うおそれがあります。

⚠警告　作業機の落下防止をする

作業機の落下を防止するため、作業機の下へ台を入れてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故を負うおそれがあります。

⚠警告　アユミ板は、強度・長さ・幅の十分あるものを使用する

積込み、積降ろしをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。
長さのめやすは荷台高さの４倍です。

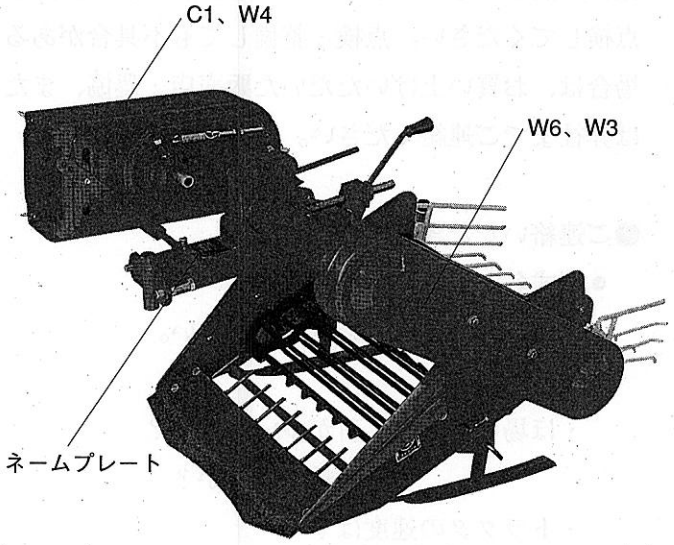
【守らないと】事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

⚠警告　子供を機械に近づけない

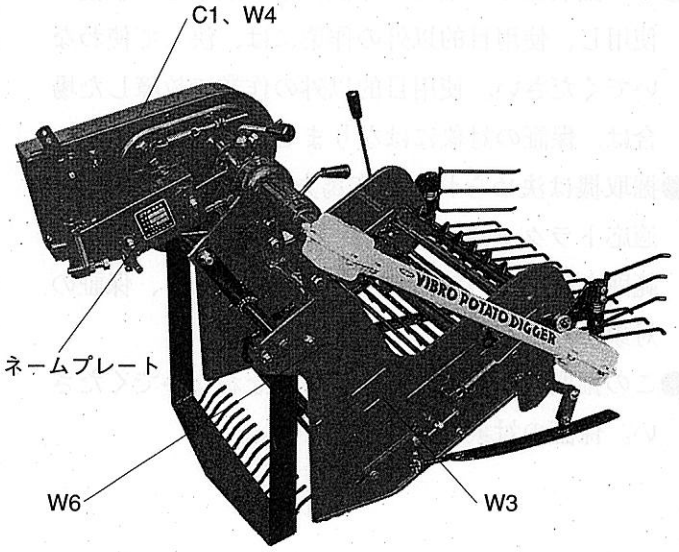
子供には十分注意し、近づけないでください。

【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。

警告ラベルの種類と位置



P、K



VP501C

⚠ 注 意

使用前に取扱説明書をよく読んで
安全で正しい作業をしてください。

始動 ●エンジン始動時や作業機関係操作レバーを操作するときは、必ず周囲に人がいないことを確認してください。
運転 ●旋回時、後退時や作業機を上下位置に操作するときはまわりや後方をよく確認してください。
●作業機の上に人を乗せないでください。
整備 ●作業機の修理・点検・清掃を行なうときはトラクターを平坦な場所に移動し駐車ブレーキをかけて、エンジンを停止し、油圧降下防止用のストップバルブをロック(閉)方向に締込んでください。
●作業機を着脱するときはトラクターと作業機の間に立たないでください。
●始業点検時、ジョイントに必ずグリスを注入してください。各部のオイル量を点検し、少ない場合はギアオイルを補給してください。
●各部ボルト、ナット類の点検を行ない、必要があれば増し締めしてください。
●カバー類は必ず所定の位置に装着してください。
8750-318000

C1　8750−318000

⚠ 警告

●エンジンまたはPTO軸が回転中は、手や足をベルトに近づけないでください。
●ケガをするおそれがあります。
8750-321000

W4　8750-321000

⚠ 警告

●作業機を着脱するときはトラクターと作業機の間に立たないでください。
●はさまれてケガをするおそれがあります。
8750-326000

W3　8750−326000

⚠ 警告

●運転中は、動いている部分に手をふれないでください。
●ケガをするおそれがあります。

W6　8750−323000

ネームプレート

ニプロ堀取機
型式
区分
製造番号
長野県丸子町
松山株式会社

本製品の使用目的について

●この掘取機は、畑での球根、イモ類などの収穫に使用し、使用目的以外の作業には、決して使わないでください。使用目的以外の作業で故障した場合は、保証の対象にはなりません。

●掘取機は決められた適応馬力で設計しています。適応トラクタ馬力の範囲内で使用してください。範囲を超えての使用は故障の原因になり、保証の対象にはなりません。

●この掘取機の改造は決しておこなわないでください。保証の対象にはなりません。

保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられるときに必要となるものです。
お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いときは、この取扱説明書を参照し点検してください。点検・整備しても不具合がある場合は、お買い上げいただいた販売店・農協、または弊社までご連絡ください。

●ご連絡いただきたい内容
- ●型式名と製造番号と区分
  - ・ネームプレートを見てください。
- ●ご使用状況
  - ・ほ場の条件は　石が多いですか？
    強粘土ですか？
  - ・トラクタの速度は？
  - ・ＰＴＯの回転数は？
- ●どのくらい使用されましたか？
  - ・約□□アール、または□□時間
- ●不具合が発生したときの状況をなるべく、くわしく教えてください。

補修部品と供給年限について

●補修部品は、純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や性能に影響する場合があります。

●この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期などご相談させていただく場合があります。

主要諸元

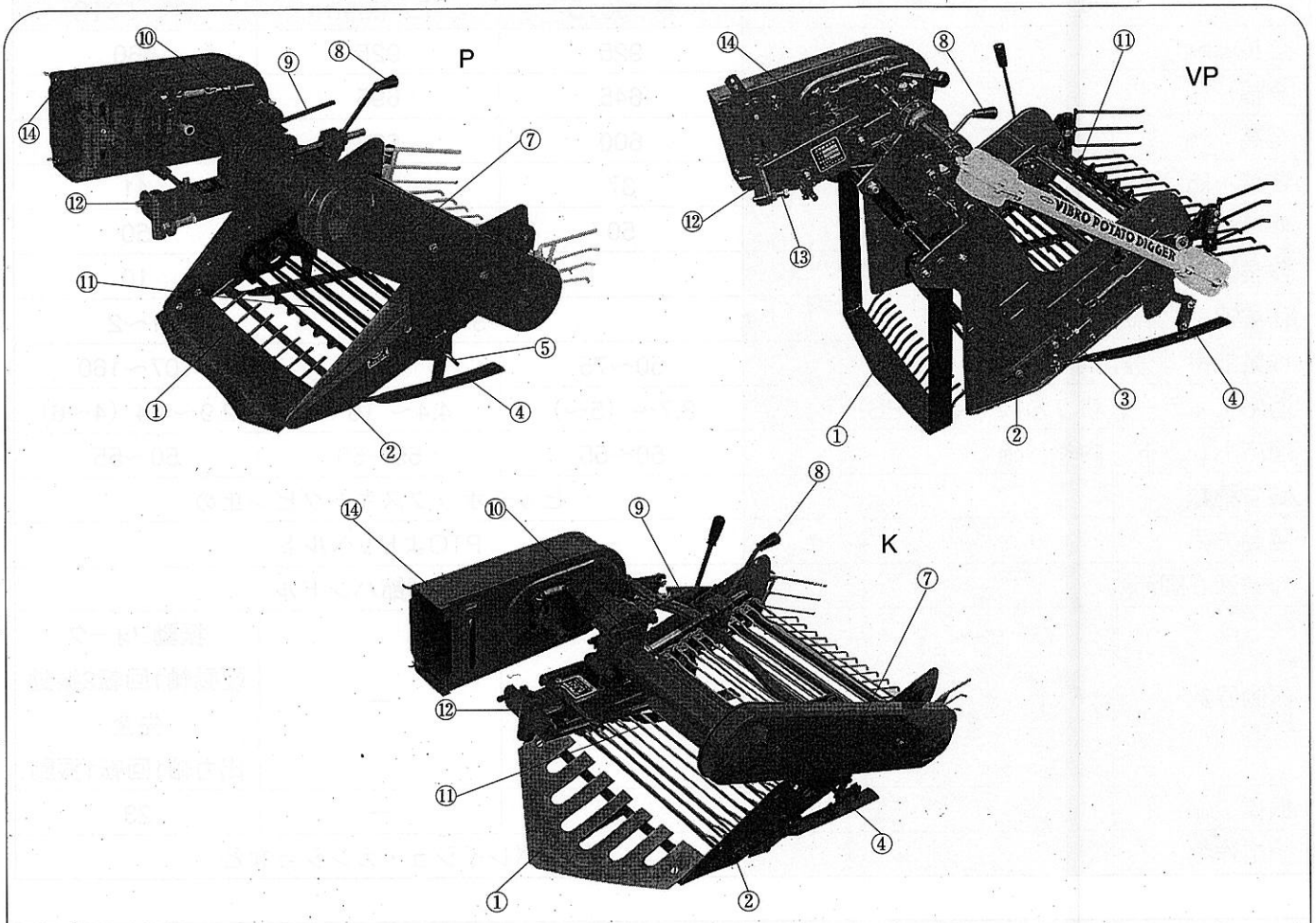
型　　式	P―501D	P―555D	VP―501C
全長　mm	925	925	860
全幅　mm	645	695	690
全高　mm	600	600	570
質量　kg	37	50	41
作業幅　cm	50	55	50
作業深さ　cm	20～35		10
作業速度　km/h	2～3		1～2
作業能率　分/10a	50～75		107～160
適応ティラー、耕うん機　kW（PS）	3.7～（5～）	4.4～（6～）	2.9～4.4（4～6）
適応トレッド　内々　cm	50～55	55～60	50～55
装着種類	ヒッチボックスキングピン止め		
駆動方式	PTOよりVベルト		
作業深さ調節	耕深調節ハンドル		
振動回数	―	―	振動フォーク 駆動軸1回転2振動 先金 出力軸1回転1振動
振幅　mm	―	―	23
適応作物	バレイショ・カンショなど		

型　　式	K―451	K―501	K―551
全長　mm	1240	1240	1240
全幅　mm	630	680	730
全高　mm	675	675	675
質量　kg	46	50	55
作業幅　cm	45	50	55
作業深さ　cm	10	10	10
作業速度　km/h	1～1.5	1～1.5	1～1.5
作業能率　分/10a	119～178	107～160	97～145
適応ティラー、耕うん機　kW（PS）	3.7～（5～）	4.4～（6～）	4.4～（6～）
適応トレッド内々　（cm）	45～50	50～55	55～60
装着種類	ヒッチボックスキングピン止め		
駆動方式	PTOよりVベルト		
作業深さ調節	耕深調節ハンドル		
適応作物	球根・コンニャク玉など		

本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

各部のなまえと組立

1 各部のなまえ



① 先金
② 主枠
③ 調節板
④ 床金
⑤ 調節ピン
⑥ 横送りコンベア
⑦ ベルトカバー
⑧ 深浅調節ハンドル
⑨ クラッチハンドル
⑩ ミッション
⑪ コンベア
⑫ 連結枠
⑬ 振止めボルト
⑭ 掘取機側カバー

2 組　立

掘取機本体は、右図のように分解されていますので、次の手順により組立てて下さい。

① 深浅雄ネジを深浅枠に止ピンで2図の位置に取付けます。

② 吊板を主枠外側の3図の位置に、4図のように中にカラーを入れて皿ビスで止めます。

③ 仮止めされている揺動引ばねを3図のようにセットします。

④ 補助カバーを主枠内側の3図の位置に取付けます。

⑤ 左右の分草板を3図のように取付けます。

⑥ ベルトカバーを外します。

⑦ 深浅雄ネジを調節して、掘取機をほぼ作業する高さにします5図。

⑧ 出力軸プーリーを駆動軸プーリーと一直線になる位置にセットします。

⑨ Vベルトを掛けます。

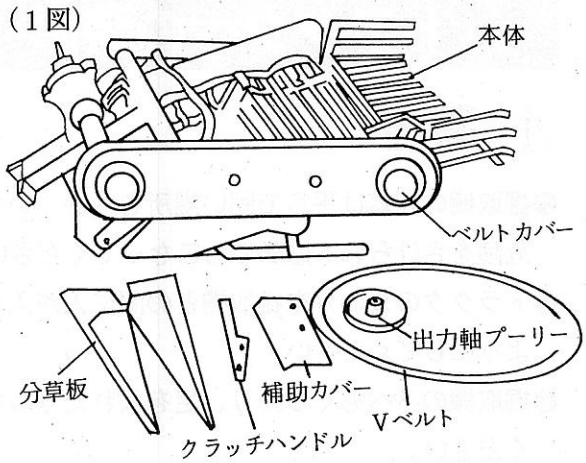
⑩ テンションプーリーでVベルトを5図のように張ります。

⑪ ベルトカバーを元通り取付けます。

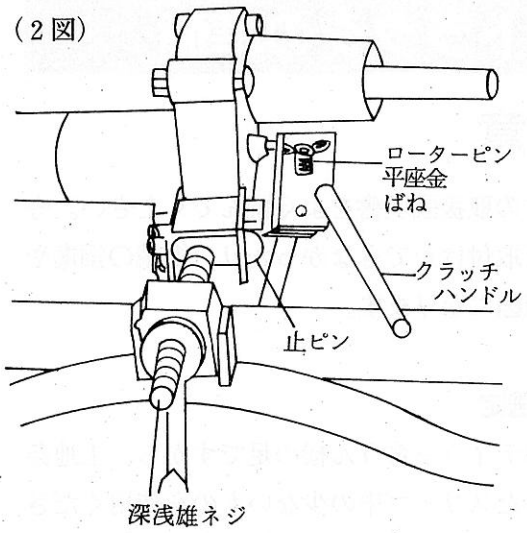
⑫ クラッチハンドルを2図の位置にばね、平座金、ローターピンで取付けます。

※製品によっては組立てて梱包発送しておりますので上図と確認下さい。

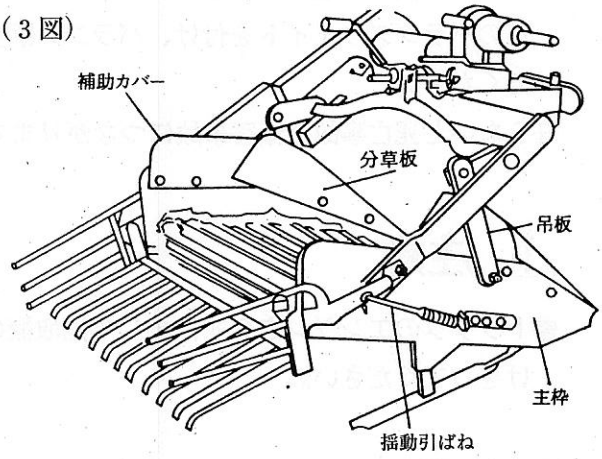
（1図）



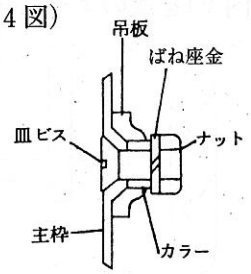
（2図）



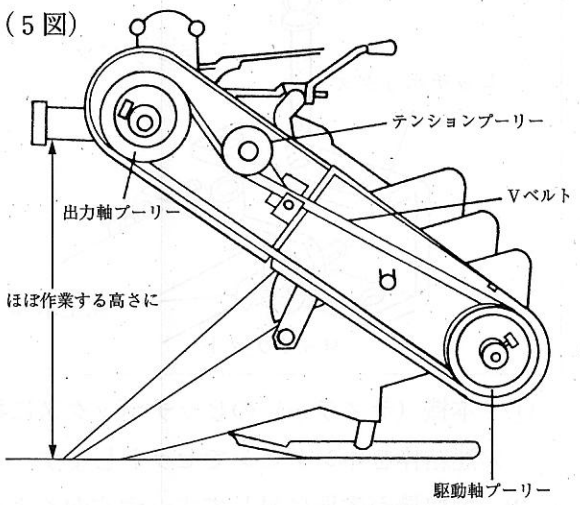
（3図）



（4図）



（5図）



⚠注　意

●梱包を解体するときは、まわりの人や物に注意してください。

●木枠やダンボールの「クギ・ハリ」などには十分注意してください。

守らないと「クギ・ハリ」や木枠でケガをすることがあります。

トラクタの準備

⚠ 注意

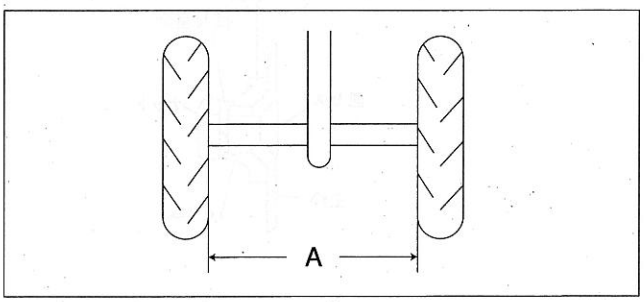
●トラクタの取扱説明書をよく読んでください。守らないと取付けができなかったり、機械の損傷やケガの原因になります。

1 車輪の選定

車輪はティラー耕うん機の足ですから、土地条件に合ったスリップ率の少ないものを使用ください。(水田用鉄車輪、水田用ゴム車輪)

2 車輪幅の調節

適正な掘取幅と作業精度を得るため、車輪と車輪の間隔(内々)を次のように合せてください。



型　　式	トラクタ車輪内幅cm
K－451	40～50
K, P, VP, 501	45～55
K551, P555	50～60

⚠ 注意

●トラクタの取扱説明書「車輪幅の調節」をよく読んでください。守らないと取付けができなかったり、機械の損傷やケガの原因になります。

トラクタへの装置

⚠ 警告

●掘取機の装着は平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢でおこなってください。

●トラクタのまわりや掘取機との間に人が入らないようにしてください。

●掘取機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。

●掘取機の装着をするときは、トラクタのエンジンを停止してください。

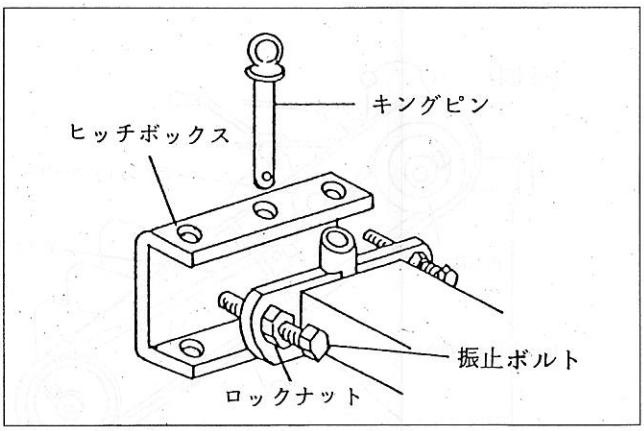
●重い掘取機を装着したときは、トラクタメーカ純正のバランスウェイトを付け、バランス調整をしてください。

守らないと死亡事故や傷害事故につながります。

⚠ 注意

●トラクタのエンジンを必ず停止して掘取機の取付けをしてください。

1 ヒッチ部

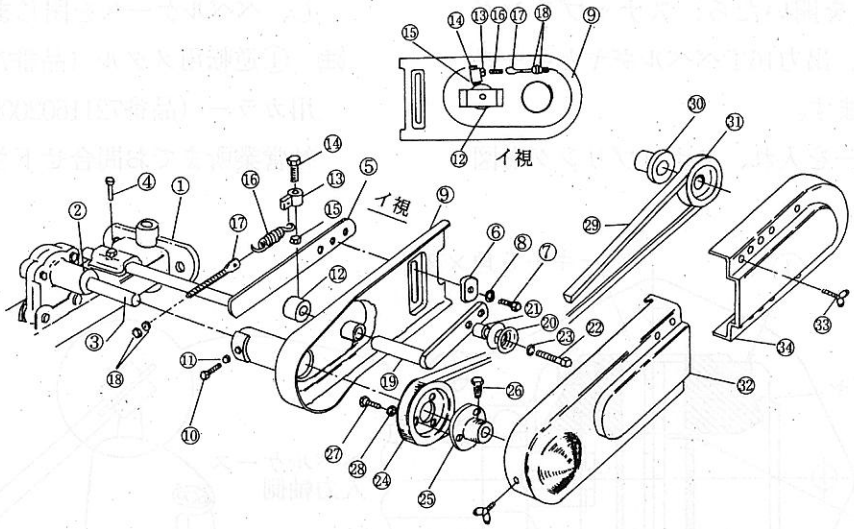


① 本機（ティラー）のヒッチボックスに掘取機の連結枠をキングピンでセットします。

② 掘取機が本機に対してまっすぐ向くようにして、左右の振止めボルトでしっかりと振止めをします。

2 ＰＴＯ動力とベルトカバー

本機のＰＴＯ軸と掘取機の入力軸をＶベルトでつなぎ、動力を連結します。ＰＴＯボス、プーリー、入力プーリー及びベルトカバーは本機型式により異なり、出荷時にはご注文の本機に合ったものが付いてきますので、次の順序で装着します。Ｖベルト（Ｂ列）は販売店で適正な長さのものをお買い求め下さい。



図を参考に、次の順序でベルトカバーを組付けて下さい。

1．まず、掘取機が本機（ティラー、耕うん機）に対してまっすぐに固定されているか確認します。

2．本機ＰＴＯ軸へ、本機型式に応じた㉚ＰＴＯボスと㉛ＰＴＯプーリーを取付けます。

3．①連結枠へ⑤１次カバー固定アームを差し込みます。

4．②ミッションケースへ⑨１次内側カバーをはめ込みます。

5．③入力軸へ㉔入力プーリー㉕ボスを差し込んで㉙Ｖベルトを掛け、ベルトがまっすぐになるように本機側とプーリー位置を合せて（なるべくボスが外側へくるように）㉖ボルトで固定します。

6．⑲テンションアームに⑳テンションローラーを㉑テンションカラーをはさんで㉒ボルトで取付けます。テンションローラーの取付け位置および方向は本機により異なりますし、ＰＴＯ回転が正転（時計回り ↻ ）の場合はベルトの下から、逆転（ ↺ ）の場合は上から張るようになりますので、良好な位置を選んで下さい。

7．⑫調整金具を⑨１次内側カバーの（ ⊓ ）の間に上向き（ ◎ ）を入れ、⑲テンションアームを通します。

8．⑨１次内側カバーの上下および左右の位置を、㉔入力プーリーや⑳テンションローラーが当たらないように決め、⑩ボルトで固定します。

9．⑤１次カバー固定アームと⑥１次カバー座金で、⑨１次内側カバーの長穴部分をはさんで⑦ボルトで固定します。同時に、１次カバー固定アームを連結枠へ④ボルトで締付けて、１次内側カバーの振動を防止します。

10. ⑳テンションローラーが正しく㉙Ｖベルトを押すように⑲テンションアームの左右位置を決め、⑭ボルトで⑬ばね受けをはさんで⑫調整金具を固定し、⑬ばね受けに⑯Ｃ形引ばねをかけ、⑰テンションボルトで正転の場合は後方へ、逆転の場合は前方へ引き、Ｖベルトを張ります。

11. ㉜掘取機側１次カバーの引掛部を⑨１次内側カバーへ確実にかみ込ませ、㉝蝶ボルトで正転の場合は上の穴、逆転の場合は下の穴へ締付けます。

12. 最後に本機型式に応じた㉞本機側１次カバーを、適当な位置を選んで㉜掘取機側１次カバーへ　蝶ボルトで取付けます。

㈱　ベルトカバーの取付け、取外しは、必ずエンジンを止めてから行うこと。ベルトカバーの取付けは、法律により義務づけられた安全対策ですので、ご使用に際しては前記説明にもとづき、必ずベルトカバーを装着の上、ご使用下さい。

3 VPのギヤ

ティラー、耕うん機のＰＴＯが逆転のものに着ける場合は、次の要領でベベルケースのベベルギヤを組替えて下さい。

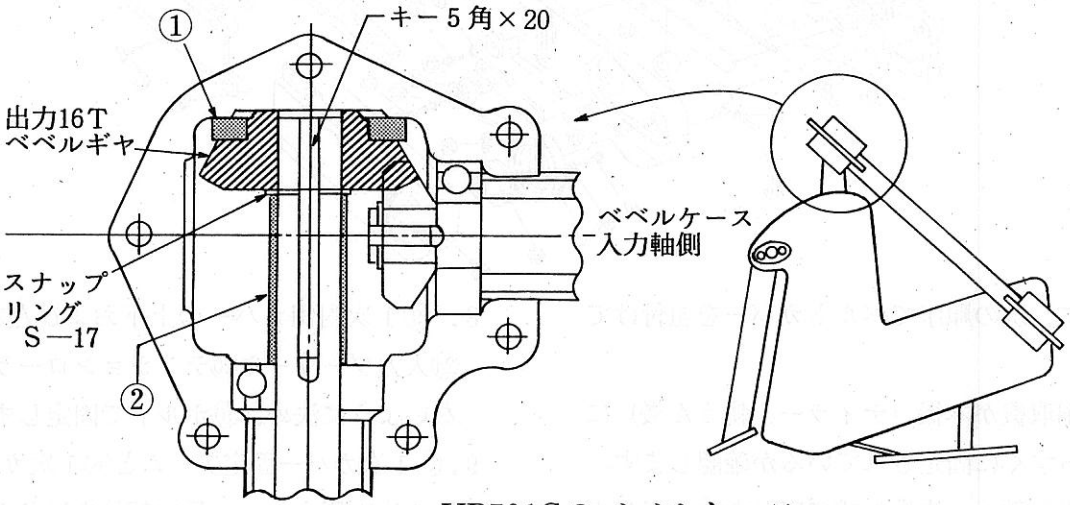
1）ベベルケースを開いたら、スナップリングＳ－17を外して、出力16Ｔベベルギヤとキー５角×20を取外します。

2）②逆転用カラーを入れ、スナップリングを図の位置に止めます。

3）出力16Ｔベベルギヤを図のようにキーを入れて軸にセットします。

4）ベベルギヤの上から①逆転用メタルをセットし、ベベルケースを閉じます。

㈱ ①逆転用メタル（品番7211603000）と②逆転用カラー（品番7211602000）がない場合は、弊社営業所までお問合せ下さい。



VP501Cのベベルケース

トラクタとの調整

⚠ 警告

●掘取機の調整をするときは、トラクタのＰＴＯ変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してからおこなってください。

●トラクタのまわりや掘取機との間に人が入らないようにしてください。

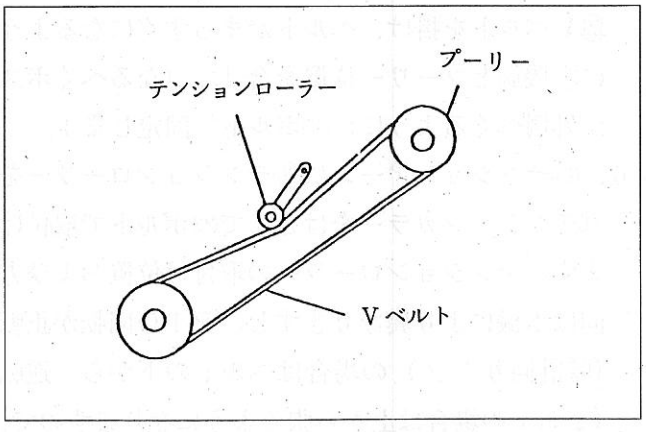
●掘取機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。

守らないと死亡事故や傷害事故の原因になります。

(1) 各部分のボルト、ナット、ピン類を点検し、必要に応じて増締して下さい。

(2) 最初はコンベアが緩みますので、調節ボルトで調節板を前に出してコンベアを張って下さい。コンベアが回って多少余裕のある状態が良好です。ロックナットはまた必ず締めて下さい。

(3) Ｖベルトが緩んでスリップする場合はベルトテンションで張って下さい。



(4) 点検整備に際して取りはずした安全のための防護装置は、必ずまたもとどおり取付けておくこと。

ほ場への出入り

●トラクタに掘取機が付いていると後ろが長くなり、横幅も広くなります。周囲の人や物に注意してください。

●急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回は危険です。

●運転者以外の人や物をトラクタや掘取機に乗せて運ばないでください。

●子供には十分注意し、機械へは近づけないでください。

●あぜ越や段差を乗り越えるときはアユミ板を使用し、地面に接しない程度に掘取機を下げ、重心を低くしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めのある物を選んでください。

●急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなく、とても危険です。トラクタメーカ純正のバランスウェイトを付けてください。

守らないと死亡事故や傷害事故、機械の損傷の原因になります。

⚠ 注意

●トラクタに掘取機を装着して公道を走行しないでください。守らないと「道路運送車両法」違反となり、事故を引き起こす原因になります。

(1) 移動のときは、掘取機が左右に振れないように、振れ止めボルトで左右の振れを止め、ロックナットで固定します。

(2) ほ場への出入りは直角に、ゆっくりと上りは前進で、下りは後進でおこないます。

作業時の注意

掘取機は作業部（コンベア）が回転しています。安易に取扱うと大きな事故につながります。また、傾斜の急な畑での作業もありますので、つぎの項目を必ず守り安全に作業をしてください。

⚠ 警告

●回転部分へ絶対に、手や足を入れないでください。

●回転部分・作業部に茎、草や雑物がからみ付いたときは、ＰＴＯ回転を止め、エンジンを停止してから外してください。

●傾斜地での急旋回はトラクタが転倒するおそれがあります。トラクタの速度を低速にして大きく旋回してください。

●子供には十分注意し、機械へは近づけないでください。

守らないと死亡事故や傷害事故の原因となります。

●旋回や後退で掘取機を持ち上げるときは、必ずＰＴＯ回転を止めてください。

●使用中異常が発生したらすぐエンジンを止め、点検をしてください。そのまま使用すると他の部分へ損傷がひろがるおそれがあります。

作業の方法

⚠ 警告

●調節するときは、トラクタのＰＴＯ変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してからおこなってください。

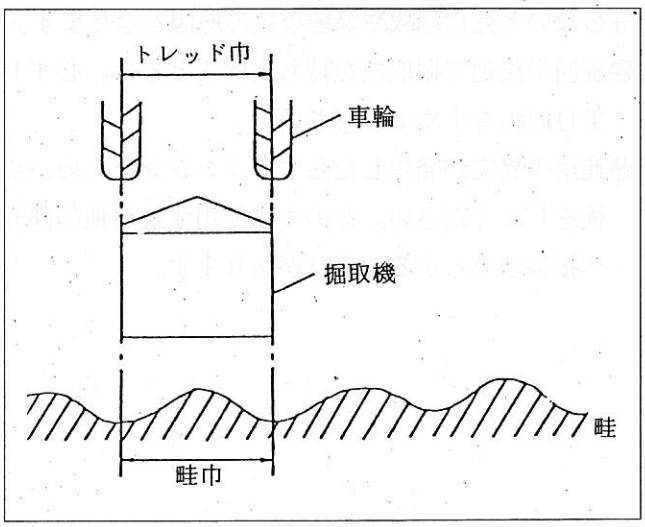
●旋回するときは、周囲の人や物に注意してゆっくり旋回してください。

守らないと傷害事故につながります。

⚠ 注意

●作業が終わったら、草やゴミを路上に落とさないでください。守らないと道路交通法違反になります。

1 作物の畦幅に本機の車輪幅を合せて畦をまたぎ、またいだ畦を掘取ります。

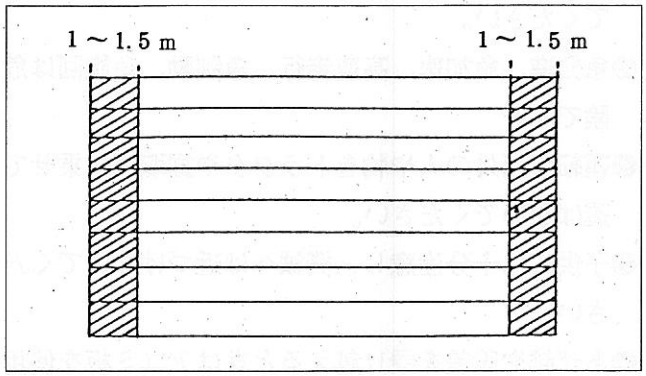


この場合、掘取機の幅が畦幅より多少狭かったり、広かったりしても作物がキズなく掘取れれば問題ありません。

2 前後バランスの調整

掘取機とティラー、耕うん機との重量バランスは、掘取機を装置した本機のハンドルが軽く浮き上がる程度が良好です。後が重い場合は本機にフロントウェイトを装着して調整して下さい。尚、前が重いほど牽引力は大きくなります。

3 あらかじめ圃場の両端１～1.5m程度を枕地として手で掘り、拾い集めをしておいてから掘取機で作業を始めます。こうすると収穫物をいためることや掘残しがありません。



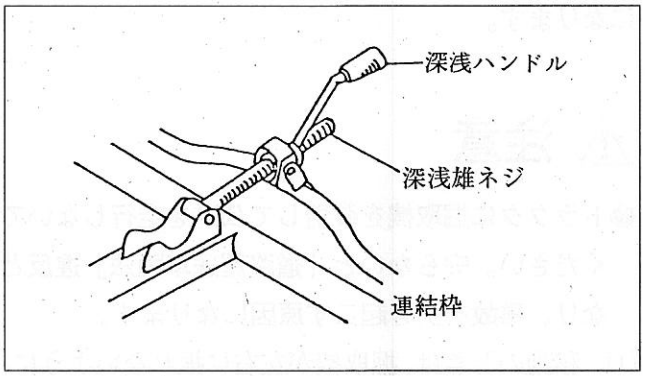
4 掘取り深さの調節

収穫物のある場所をよく確かめてから作業に入り、最初２～３m掘ったところで深さの確認をしてから作業を続けます。

掘取る深さは深浅ハンドルを回して調節します。

・右に回す――浅くなる

・左に回す――深くなる

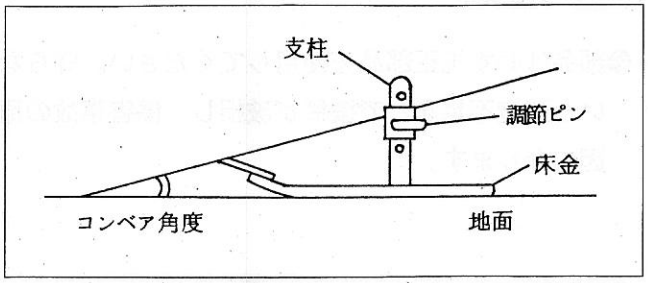


5 作業速度は１～２㎞／ｈが標準ですが、作物の状態や土地条件に合せて決めて下さい。

6 ＰＴＯ回転は駆動軸が160～200rpmで回る状態が標準で、それに合ったプーリーがついていきますが、土地条件や作物の状態によりこの限りではありません。しかし、できるだけ遅い方が望ましく、ＰＴＯ変速を低速にし、エンジン回転を落してお使い下さい。

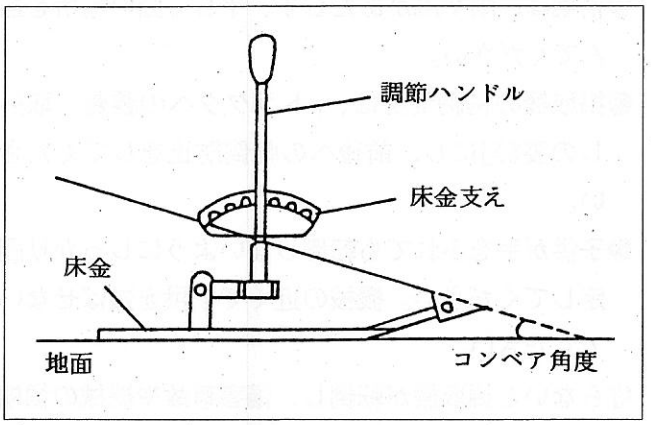
7 作業中の方向修正はサイドクラッチを使わずにハンドルで修正を願います。サイドクラッチを使用すると掘取機が振られ作物をいためます。

8 コンベア角度の調節 (P501・555D)



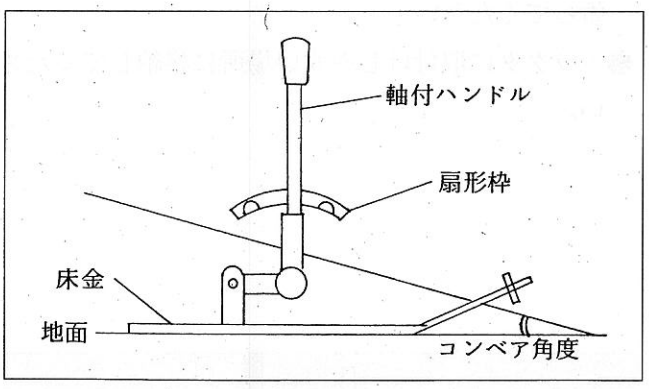
調節ピンの差替えにより、床金の支柱を上下して角度を変えます。上、中、下と3段階に調節できますが、まん中の穴が標準です。

9 コンベア角度の調節 (K451～551)



調節ハンドルの操作により床面を上下して角度を変えます。6段階に調節できますが前から2番目の切込みが標準です。

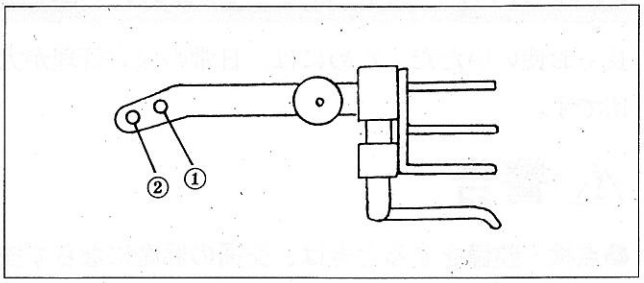
10 コンベア角度の調節 (VP)



軸付ハンドルを前後に操作して角度を変えます。前、中、後と3段階に調節できますが、扇形枠の中の切込みが標準です。

11 一畦掘り終えて旋回する時は掘取機のクラッチを切り、コンベアの回転を止めてから旋回して下さい。尚、その前に本機の走行を止め、コンベアだけを回して土を落しますと、旋回が楽にできます。

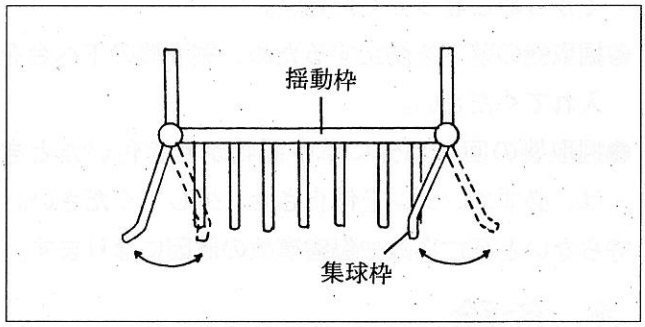
12 揺動枠支点位置 (VP)



床金の上下調節にともない、揺動枠の支点位置も変えて下さい。

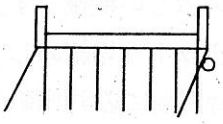
・①の穴――――扇形枠の前と中の切込みの時。
・②の穴――――後の切込みの時。

13 集球枠の角度 (VP)

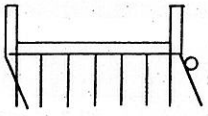


集球枠の角度は2段階に変えることができますので、圃場の傾斜状態に合せて角度を変えて下さい。

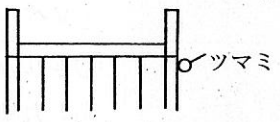
14 揺動枠の集球板は左右に動きますので、収穫物の落としたい向きに変えて下さい。ツマミを押して集球板を左右に動かします。(P、K、VP)



左へ落とす場合



右へ落とす場合



中央へ落とす場合

点検整備・保守管理

長くお使いいただくためには、日常の保守管理が大切です。

⚠ 警告

●点検・整備をするときは、交通の邪魔にならず安全なところを選んでください。機械が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所を選び、トラクタのタイヤには車止めをしてください。

●点検・整備をするときは、トラクタのＰＴＯ変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してからおこなってください。

●掘取機の落下を防止するため、掘取機の下へ台を入れてください。

●掘取機の回転部分に草や雑物が巻き付いたときは、必ずエンジンを停止させ、外してください。

守らないと死亡事故や傷害事故の原因になります。

⚠ 危険

●点検・整備のときに外したＶベルトカバー・入力軸カバー・延長出力軸カバー・チェーンカバーは、必ずもとどおりに取付けてください。守らないと巻き込まれて傷害事故の原因になります。

1 ボルト・ナットのゆるみ点検

掘取機は振動の激しい機械です。使用するたびに各部のボルト・ナットを増締めしてください。新品の場合は使用２時間後に必ず増締めをしてください。

⚠ 注意

●部品は必ず純正部品を使用してください。守らないと強度不足などで機械が破損し、傷害事故の原因になります。

格　納

⚠ 警告

●格納は、雨や風があたらず、平らで固い場所を選んでください。

●掘取機の格納姿勢は、「トラクタへの装着、取外しの姿勢」にし、前後への転倒防止をしてください。

●子供が手をふれても転倒しないようにしっかり固定してください。機械の近くで子供を遊ばせないでください。

守らないと掘取機が転倒し、傷害事故や機械の損傷につながります。

●作業終了後は、よく水洗いして水分をふき取ってください。

●先金、コンベアのプレート部にはサビ止めの油を塗ってください。

●トラクタに取付けしやすい場所に格納してください。

点検整備チェックリスト

時　　間	項　　目
新品使用始め	組み立て部品のボルト、ナットのゆるみ確認
新品使用　２時間	ボルトナットの増締め
新品使用　30時間	①チェーンケースのグリース点検　②地面から上げて回転させ、異常のチェック ③Ｖベルトの張り調整
使　用　後	①きれいに洗浄して水分ふきとり　②ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落チェック ③入力軸へグリースを塗る　④動く部分へ注油
シーズン終了後	①無塗装部分へサビ止め　②消耗部品は早めに交換

※機体の各部の変形、損傷等の異常を見つけたら、速やかに修理してください。
なお、お客様でできない作業項目は、購入された農協、販売店等へお問合せください。

秘山静美谷轨

松山株式会社

本　　社　〒386-0497　長野県上田市塩川5155
TEL (0268)42-7500　FAX(0268)42-7556

物流センター　〒386-0497　長野県上田市塩川2949
TEL (0268)36-4111　FAX(0268)36-3335

北海道営業所　〒068-0111　北海道岩見沢市栗沢町由良194-5
TEL (0126)45-4000　FAX(0126)45-4516

旭川出張所　〒079-8451　北海道旭川市永山北1条8丁目32
TEL (0166)46-2505　FAX(0166)46-2501

帯広出張所　〒082-0004　北海道河西郡芽室町東芽室北1線18番10
TEL (0155)62-5370　FAX(0155)62-5373

東北営業所　〒989-6228　宮城県大崎市古川清水3丁目石田24番11
TEL (0229)26-5651　FAX(0229)26-5655

関東営業所　〒329-4411　栃木県栃木市大平町横堀みずほ5-3
TEL (0282)45-1226　FAX(0282)44-0050

長野営業所　〒386-0497　長野県上田市塩川2949
TEL (0268)35-0323　FAX(0268)36-4787

岡山営業所　〒708-1104　岡山県津山市綾部1764-2
TEL (0868)29-1180　FAX(0868)29-1325

九州営業所　〒869-0416　熊本県宇土市松山町1134-10
TEL (0964)24-5777　FAX(0964)22-6775

南九州出張所　〒885-0074　宮崎県都城市甲斐元町3389-1
TEL (0986)24-6412　FAX(0986)25-7044

'12.08.001KY